

実務経験のある教員等による授業科目の配置(13単位分) 保健医療学部 理学療法学科
新カリキュラム(2024年度以降入学生)

省令で定める基準単位数:13単位

	授業科目名	配当年次	単位数	時間数	担当教員の職位・氏名	実務経験
1	リハビリテーション医学	2前	1	30	教授 江口勝彦	理学療法士
2	神経系理学療法評価・治療学 I	3前	2	30	教授 金子純一郎	理学療法士
3	生体計測学	2後	1	30	教授 中野克己	理学療法士
4	基礎理学療法学 I	1前	2	30	准教授 大森啓之	理学療法士
5	地域理学療法学	3前	2	30	准教授 丸谷康平	理学療法士
6	日常生活活動学	3前	2	30	講師 浅見正人	理学療法士
7	内部系理学療法評価・治療学	3前	2	30	講師 玉田良樹	理学療法士
8	ウィメンズヘルス	3後	1	15	講師 寺岡かおり	理学療法士
	単位数合計		13			

科目コード	24-12231
授業科目名	リハビリテーション医学
配当年次	2学年
開講時期	前期
必修・選択・自由	必修
単位	1単位
時間数	30時間
授業形態	講義
担当教員	江口 勝彦
実務家教員	理学療法士：江口勝彦
授業科目の概要	本講義では、臨床医学としてのリハビリテーション医学を理解するために、リハビリテーション医学の定義や歴史を含めた総論、臨床に遭遇することの多い対象疾患(神経系、運動器系、呼吸器系、循環器系疾患)の特徴とそれらの疾患による機能障害、能力障害、社会的不利、その代表的な検査と評価法、リハビリテーション・アプローチ(理学療法、作業療法、言語聴覚療法等)について学習する。
授業の到達目標	リハビリテーション医学のパラダイムを理解し、主要な疾患について、広く浅くリハビリテーション医学の視点から概観し、他科臨床医学系科目、理学療法専門科目の理解を深められるように準備することを目標とする。
関連するディプロマポリシー	
特に関連する科目	リハビリテーション概論、医学概論、一般臨床医学、整形外科学Ⅰ、整形外科学Ⅱ、神経内科学Ⅰ、神経内科学Ⅱ、小児科学、老年医学、ほか臨床医学科目、理学療法専門科目
授業の具体的な進め方	講義中心 適宜、関連の国家試験問題や作成した擬似問題を提示し、理解を深める できるだけインタラクティブに進めたいので、積極的に参加してほしい

授業計画

回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	4/9	火	1	江口勝彦	306	コースオリエンテーション、リハビリテーション医学概論 一般目標:リハビリテーション医学の特徴を理解する 行動目標:1. RH概論(1年開講科目)で学習したRH医学の成り立ち歴史を踏まえて、本邦における現在のRH医学の状況を説明できる(診療標榜、学会、専門性) 2. RH医学の標準的な流れを説明できる
2	4/23	火	1	江口勝彦	306	脳疾患①脳卒中-1- 一般目標:脳卒中という疾患とその障害について理解する 行動目標:1. 脳卒中の分類ができる 2. 脳の局在についていえる 3. 中枢神経系の階層性と解放現象についていえる 4. 脳卒中による痙性麻痺と運動障害についていえる 5. 脳卒中による感覚障害、高次脳機能障害についていえる
3	5/30	火	1	江口勝彦	306	脳疾患①脳卒中-2- 一般目標:脳卒中のRHについて理解する 行動目標:1. 脳卒中の評価について、その概略がいえる 2. 脳卒中の病期と治療(PT, OT, ST, 装具, 他)についていえる
4	5/13	月	4	江口勝彦	306	脳疾患②外傷性脳障害など、脳疾患のまとめ 一般目標:外傷性脳障害とその障害について理解する 行動目標:1. 外傷性脳障害の特徴がいえる 2. 外傷性脳障害と脳卒中との類似点、相違点を理解する 一般目標:脳疾患のRHについて整理する 行動目標:1. 脳卒中のRHについて整理する 2. 外傷性脳障害のRHについて整理する
5	5/14	火	1	江口勝彦	306	脊髄損傷① 一般目標:脊髄損傷とその障害について理解する 行動目標:1. 脊髄損傷の分類ができる 2. 脊髄の局在についていえる 3. 脊髄損傷による痙性麻痺と運動障害についていえる 4. 脊髄損傷による感覚障害、その他の障害、合併症についていえる 5. 脊髄損傷の病期とそれに沿った管理、治療についていえる
6	5/21	火	1	江口勝彦	306	脊髄損傷② 一般目標:脊髄損傷のRHについて理解する 行動目標:1. ASIAについていえる 2. 完全横断損傷と不全(部分)損傷についていえる 3. 頸髄損傷(四肢麻痺)の障害についていえる 4. 胸髄・腰髄損傷(対麻痺)の障害についていえる 5. Goal Orientedな考え方を理解する 6. 脊髄損傷のGoalについて説明できる 7. 脊髄損傷のRHについて説明できる
7	5/28	火	1	江口勝彦	306	関節リウマチ 一般目標:関節リウマチのRHについて理解する 行動目標:1. 関節リウマチ(自己免疫疾患、膠原病)についていえる 2. 関節リウマチの障害像についていえる 3. 関節リウマチのRHについて説明できる
8	6/4	火	1	江口勝彦	306	小児疾患 - 発達と脳性小児麻痺 - 一般目標:小児の発達と中枢神経系の成熟について理解する 行動目標:1. 生理的早産について説明できる 2. 0~12ヶ月までの反射と運動発達についていえる 3. 小児と成人のRHの相違点についていえる 一般目標:脳性麻痺について理解する 行動目標:1. 脳性麻痺の定義についていえる 2. 0~12ヶ月までの反射と運動発達についていえる 3. 脳性麻痺の障害像についていえる 4. 脳性麻痺のRHについて説明できる
9	6/11	火	1	江口勝彦	306	神経筋疾患 - パーキンソン病を中心に - 一般目標:パーキンソン病のRHについて理解する 行動目標:1. パーキンソン病の概略についていえる 2. パーキンソン病の障害像についていえる 3. パーキンソン病のRHについて説明できる 4. その他の神経筋疾患について理解する
10	6/18	火	1	江口勝彦	306	疼痛性疾患 - いわゆる四十腰、いわゆる五十肩 - 一般目標:いわゆる腰痛症(四十腰)のRHについて理解する 行動目標:1. 腰痛症(四十腰)の概略についていえる 2. 腰痛症(四十腰)の障害像についていえる 3. 腰痛症(四十腰)のRHについて説明できる 一般目標:いわゆる肩関節周囲炎(五十肩)のRHについて理解する 行動目標:1. 肩関節周囲炎(五十肩)の概略についていえる 2. 肩関節周囲炎(五十肩)の障害像についていえる 3. 肩関節周囲炎(五十肩)のRHについて説明できる

11	6/25	火	1	江口勝彦	306	<p>関節疾患:変形性膝関節症、変形性股関節症 一般目標:変形性膝関節症のRHについて理解する 行動目標:1.変形性膝関節症の概略についていえる 2.変形性膝関節症の障害像についていえる 3.変形性膝関節症のRHについて説明できる 一般目標:変形性股関節症のRHについて理解する 行動目標:1.変形性股関節症の概略についていえる 2.変形性股関節症の障害像についていえる 3.変形性股関節症のRHについて説明できる</p>
12	7/2	火	1	江口勝彦	306	<p>外傷①スポーツ障害、末梢神経麻痺 一般目標:スポーツ障害(過用性症候群、靭帯損傷などの外傷)のRHについて理解する 行動目標:1.スポーツ障害の概略についていえる 2.スポーツ障害の障害像についていえる 3.スポーツ障害のRHについて説明できる 一般目標:末梢神経麻痺のRHについて理解する 行動目標:1.末梢神経麻痺の概略についていえる 2.末梢神経麻痺の障害像についていえる 3.末梢神経麻痺のRHについて説明できる</p>
13	7/9	火	1	江口勝彦	306	<p>外傷②骨折 一般目標:骨折のRHについて理解する 行動目標:1.骨折の概略についていえる 2.骨折の障害像についていえる 3.代表的骨折についてRHについて説明できる</p>
14	7/16	火	1	江口勝彦	306	<p>切断 一般目標:切断のRHについて理解する 行動目標:1.切断の概略についていえる 2.切断の障害像についていえる 3.切断のRHについて説明できる</p>
15	7/23	火	1	江口勝彦	306	<p>内部障害:呼吸系、循環系、代謝系とその他:熱傷、がん、周産期など 一般目標:呼吸(換気障害)のRHについて理解する 行動目標:1.呼吸(換気障害)の概略についていえる 2.呼吸(換気障害)の障害像についていえる 3.呼吸(換気障害)の包括的RHについて説明できる 一般目標:循環(虚血性心疾患)のRHについて理解する 行動目標:1.循環(虚血性心疾患)の概略についていえる 2.循環(虚血性心疾患)の障害像についていえる 3.循環(虚血性心疾患)のRHについて説明できる 一般目標:その他のRHについて理解する 行動目標:その他のRHについて説明できる</p>
成績評価方法・基準					筆記試験(出題形式は国家試験形式中心)100%	
課題に対するフィードバックの方法					課題なし	
授業外における学習(予習・復習)					教科書の関連部分を各自まとめる。	
教科書 ・参考文献等		教科書			出江紳一/加賀谷 編 『リハビリテーション医学テキスト改訂第5版』(南江堂、2022年) ISBN:9784524228492	
		参考書			上田敏, 千野直一, 大川嗣雄(編):リハビリテーション基礎医学 第2版。(医学書院, 1994年) ISBN: 9784260243483	
		その他			講義の中で紹介	
連絡先・オフィスアワー					<p>オフィスアワー:随時、メール、クラスルーム、またはチャットにて 連絡先:k-eguchi@jhsu.ac.jp 研究室:421号室</p>	
その他					学年にふさわしい内容に留め、わかりやすさを目指しますので、不明な点はどんどん質問してください。	

科目コード	24-12328					
授業科目名	神経生理学療法評価・治療学Ⅰ					
配当年次	3学年					
開講時期	前期					
必修・選択・自由	必修					
単位	2単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	金子 純一郎					
実務家教員	理学療法士：金子純一郎					
授業科目の概要	脳血管障害の病態と障害像を理解し、その評価ならびに各病期における必要な基本的理学療法の進め方について学ぶ。具体的には、脳血管障害に対する理学療法評価(評価、問題点抽出)および理学療法治療(運動療法の原理、治療体系、問題点抽出後の目標設定、治療プログラム作成、理学療法実施方法)、日常生活活動(基本動作)の指導方法を学習する。					
授業の到達目標	1 脳血管障害患者における合併症・併存疾患に配慮し、適切な理学療法が立案できる。 2 中枢神経障害がもたらす運動障害ならびに感覚・知覚・認識機能の評価ができる。 3 患者の個別性や生活環境等の情報収集を行い、回復状況にあわせた目標が決定できる。 4 脳血管障害の各病期ならびに回復段階に必要なかつ適切な基本的理学療法介入を実施できる。					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)に該当。					
特に関連する科目	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 神経内科学Ⅰ・Ⅱ 画像評価学 基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ 臨床推論演習 理学療法総合演習 理学療法評価学 理学療法評価学演習Ⅰ・Ⅱ 神経生理学療法評価・治療学Ⅱ 神経生理学療法評価・治療学演習 日常生活活動学 日常生活活動学演習 検査・測定実習 評価実習 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ					
授業の具体的な進め方	対面授業にて行う。 感染対策上、必要な場合は、遠隔授業にて行う場合がある。 講義は教科書を中心に進める。 十分な予習と復習を求める。 講義の理解度を確保するため、演習チェックやレポート課題を課す場合がある。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1(日授業)	9/26	木	2	金子純一郎	306	オリエンテーション 総論 中枢神経系の機能と構造、神経障害の定義
2(日授業)	9/26	木	4	金子純一郎	306	2. 神経障害に対する理学療法介入、理学療法の考え方
3	10/04	金	3	金子純一郎	306	3. 脳卒中 急性期(症状・障害の理解)
4	10/04	金	4	金子純一郎	306	4. 脳卒中 急性期(理学療法の理論の実際)
5	10/11	金	3	金子純一郎	306	5. 脳卒中 回復期(症状・障害の理解)
6	10/11	金	4	金子純一郎	306	6.脳卒中 回復期(理学療法の理論と実際)1 立ち上がり動作～立位保持
7	10/25	金	3	金子純一郎	306	7.脳卒中 回復期(理学療法の理論と実際)2 立位～歩行
8	10/25	金	4	金子純一郎	306	8.脳卒中 回復期(理学療法の理論と実際)3 (姿勢調節障害に対する運動療法の進め方)
9	11/01	金	3	金子純一郎	306	9.脳卒中 回復期(理学療法の理論と実際)4 座位保持・寝返り・起き上がり動作
10	11/01	金	4	金子純一郎	306	10.脳卒中 維持期(症状・障害の理解)
11	11/08	金	3	金子純一郎	306	11.脳卒中 急性期(理学療法の実践-実技演習-)
12	11/08	金	4	金子純一郎	306	12.脳卒中 回復期・維持期(理学療法の実践-実技演習-)
13	11/15	金	3	金子純一郎	306	13.脳卒中 維持期(理学療法の実践2)
14	11/15	金	4	金子純一郎	306	14.脳卒中 急性期・回復期・維持期(症状・障害の理解)
15	11/22	金	3	金子純一郎	306	15.総合演習、まとめ、総括
成績評価方法・基準	1. 期末試験60%。レポート課題40%。補習は、単位認定試験や最終単位認定試験の受験条件とし、その指定した補習に出席しない場合は受験資格を失う。 小テストや課題を出す場合がある。それらの未提出や遅延、内容不十分な場合、講義ルール・マナー違反、迷惑行為等で注意された場合は、「1回につき総合点から10～40点減点」する。 2. データコピーやデータの使い回し、写し、コピー&ペースト、盗用などの不正行為やルール違反と判断された場合は不合格扱いまたは単位不認定とする。 3. レポート課題における酷似した成果物、試験中の持ち込み、特にメモ類は内容如何を問わずカンニング扱いとする。 試験監督者に不正行為やルール違反と判断された場合は、不正行為となる。 不正行為を行なった場合は、当該年度のすべての単位を取り消され、また、懲戒処分を受けるので注意すること。 4. 試験を欠席した場合は、次の試験を受けるために事務への連絡と所定の手続きを必ず行うこと。					
課題に対するフィードバックの方法	毎回の振り返りに対して、質問や講義直後のリフレクションを通じてフィードバックする。					
授業外における学習(予習・復習)	課題1: 講義前の予習として、教科書を十分に読み、内容の理解に努め、また、分からないことを明らかに講義に臨むこと。 課題2: 講義中に説明したことは、ノートや蛍光マーカー、アンダーライン、教書への書き込みをするなど復習できるように記録すること。 課題3: 講義後は学習した範囲の復習を行い神経生理学療法について理解・説明できるように、しっかりと覚えるまで十分に反復学習すること。 課題4: 図書やオフィスアワー等を利用し、分からないことを必ず解決すること。 課題5: 演習問題やレポート課題などを適時設ける場合がある。					
教科書・参考文献等	教科書	神経障害理学療法学(潮見泰蔵、羊土社、2024/3/4) ISBN 9784758114370				
	参考書	相磯貞和『ネッター解剖学アトラス[電子書籍付](原書第7版)』(南江堂、2022年) ISBN:9784524230082				
		松澤正ほか『理学療法評価学 第6版補訂版』(金原出版、2022年) ISBN:9784307750684				
その他	田崎義明ほか『ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版』(南山堂、2016年) ISBN:9784525247980 奈良勲他編『図解理学療法検査・測定ガイド 第2版』(文光堂、2009年) ISBN:9784830643590					
連絡先・オフィスアワー	平日の月曜日8時～13時 平日の木曜日13時～15時 研究室416(4階)					
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。					

科目コード	24-12314					
授業科目名	生体計測学					
配当年次	2学年					
開講時期	後期					
必修・選択・自由	必修					
単位	1単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	中野 克己					
実務家教員	理学療法士: 中野 克己					
授業科目の概要	理学療法の評価や治療場において活用する様々なハビリテーション機器の活用能力を身につけるために、数学および物理学の知識を応用しながら各測定・計測機器の原理や構造を理解し、その操作、使用方法、得られたデータの意味や解釈の方法について学習する。					
授業の到達目標	1. 機器の基本原理を理解し、説明できる。 2. 機器の測定対象について、疾患や障害を理解できる。 3. 機器の使用方法を理解できる。 4. グラフや表、図からデータを読み取り、結果の解釈について説明できる。					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(2)に該当。					
特に関連する科目	運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 神経生理学療法評価・治療学Ⅰ 神経生理学療法評価・治療学Ⅱ 運動器系理学療法評価・治療学Ⅰ 運動器系理学療法評価・治療学Ⅱ 臨床動作分析学					
授業の具体的な進め方	配布資料をもとに講義及び実技を対面形式で行う。 演習で得られたデータを収集し分析する。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	9/27	金	2	中野克己	306	オリエンテーション 計測法総論
2	10/4	金	2	中野克己	306	測定で用いられる数学的基礎
3	10/11	金	2	中野克己	306	メジャー、ストップウォッチを用いた計測の実際
4	10/25	金	2	中野克己	306	足圧分布計測システム
5	11/1	金	2	中野克己	306	血圧計
6	11/8	金	2	中野克己	306	パルスオキシメーター
7	11/15	金	2	中野克己	306	スパイロメーター
8	11/22	金	2	中野克己	306	体成分分析装置
9	11/29	金	2	中野克己	306	心電図
10	12/6	金	2	中野克己	306	筋電図
11	12/13	金	2	中野克己	306	筋力計測機器
12	12/20	金	2	中野克己	306	床反力計1
13	1/10	金	2	中野克己	306	床反力計2
14	1/17	金	2	中野克己	306	三次元動作解析装置1
15	1/24	金	2	中野克己	306	三次元動作解析装置2
成績評価方法・基準	各講義・演習終了後、課題の提出(100%)					
課題に対するフィードバックの方法	提出課題レポートについてはclassroomを活用し、授業に関する質問は、毎回の授業内でフィードバックする。					
授業外における学習(予習・復習)	予習: Classroomに挙げた課題を一通り目を通しておくこと(30分) 復習: 提出課題について調べ、classroomを通じて提出を行う(30分)					
教科書 ・参考文献等	教科書	特になし				
	参考書	内山靖・小林武・間瀬教史編集『計測法入門～計り方、計る意味～』(協同医書出版社、2001年) ISBN:9784763910301				
	その他	特になし				
連絡先・オフィスアワー	質問は授業直後、又は研究室420で対応する。また、メール(k-nakano@jhsu.ac.jp)でも随時対応する。					
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての(専門機関における)実務経験を活かした講義を行う。					

科目コード	24-12301					
授業科目名	基礎理学療法学 I					
配当年次	1学年					
開講時期	前期					
必修・選択・自由	必修					
単位	2単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	大森 啓之					
実務家教員	理学療法士：大森 啓之					
授業科目の概要	理学療法の全体像を理解するため、理学療法の定義、目的、分類、歴史、対象、治療手段、理学療法の業務、職域、身分法、理学療法部門の組織、職業倫理と職場管理、業界組織、学術活動等に関して理解し、リハビリテーション医療チームにおける理学療法士の位置付けやその役割を学習する。					
授業の到達目標	1. 理学療法と関係法規、制度を理解する。 2. 理学療法の機能・障害の分類を理解する。 3. 理学療法の対象と治療手段を理解する。 4. 理学療法士の職域を理解する。 5. 理学療法の組織・リスク・個人情報管理を理解する。					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)①②③(2)①②(3)①に該当。					
特に関連する科目	関連し合う科目 - リハビリテーション概論、基礎理学療法学Ⅱ、理学療法管理学 この科目が基礎となる科目 - リハビリテーション医学、リハビリテーションチーム論、各理学療法評価・治療学					
授業の具体的な進め方	テキスト、配布資料を中心に講義および課題演習形式でSyllabus通りに進める。 講義時に出席確認、小テストで出席状況を確認する。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	4/5	金	2	大森 啓之	217	コースオリエンテーション 理学療法の概念と歴史
2	4/12	金	2	大森 啓之	217	理学療法士の法律
3	4/19	金	2	大森 啓之	217	理学療法士に関わる保険制度
4	4/23	火	1	大森 啓之	217	理学療法士の教育
5	5/10	金	2	大森 啓之	217	国際機能分類(ICF)・倫理と哲学
6	5/17	金	2	大森 啓之	217	理学療法の対象と治療手段1
7	5/31	金	2	大森 啓之	217	ここまでのまとめ、まとめテスト
8	6/7	金	2	大森 啓之	217	理学療法の対象と治療手段2
9	6/14	金	1	大森 啓之	217	理学療法士の職域① 理学療法士の主な職場
10	6/14	金	2	大森 啓之	217	理学療法士の職域② 期待される職域
11	6/21	金	1	大森 啓之	217	理学療法士の組織と管理
12	6/21	金	2	大森 啓之	217	医療事故とリスクマネジメント
13	6/28	金	1	大森 啓之	217	個人情報の管理と対象者の権利
14	6/28	金	2	大森 啓之	217	理学療法士として求められるもの
15	7/5	金	1	大森 啓之	217	臨床教育の実践
成績評価方法・基準	筆記試験(まとめテスト、定期試験)80%、課題20%で判定する。					
課題に対するフィードバックの方法	講義内もしくは質問時に解説する。					
授業外における学習(予習・復習)	授業の前に予習として教科書の該当部分を必ず熟読した上で出席すること。 毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。 知識の理解・習得のため、予習・復習を合わせて60分以上行うこと。					
教科書 ・参考文献等	教科書	奈良 勲・高橋 哲也・内山 靖 編著『理学療法概論 第7版』(医歯薬出版、2019年) ISBN:9784263265864				
	参考書	『南山堂医学大辞典 第20版』(南山堂、2015年) ISBN:9784525010805				
		奈良勲監『理学療法学辞典』(医学書院、2006年) ISBN:9784260000352				
	その他	必要に応じて資料を配布する。				
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法職としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。					

成績評価方法・基準	各授業ごとに確認テストを実施する。配点は出席点(10%)、課題・プレゼン(30%)定期試験(60%)の合計にて判定し、60%以上を合格とする。しかし、1)一定以上の出席日数、2)課題の提出、3)期末試験が60%以上の3条件をすべて満たすことが必要である。その他判定に関しては学内判定基準に準じる。	
課題に対するフィードバックの方法	課題やプレゼン内容については、当日の講評をもって返答する。 定期試験は試験終了後試験問題を持ち帰りにて配布し、模範解答は試験終了後数日以内にClassroomを通じて配布する。	
授業外における学習(予習・復習)	授業範囲を教科書にて予習を行う。講義後に、講義で配布される資料を用いて復習をおこなうこと。復習ではGoogle Formを使った小テスト(授業復習問題)を解答し、予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。	
教科書 ・参考文献等	教科書	浅川康吉編集『Crosslink理学療法学テキスト 地域理学療法学』(MEDICAL VIEW、2019年) ISBN:9784758320108
	参考書	牧迫飛雄馬・吉松竜貴編『地域理学療法学(最新理学療法学講座)』(医歯薬出版、2021年) ISBN:9784263267349 松澤 正(著)、江口 勝彦(著)『理学療法評価学 第6版補訂版』(金原出版、2022年) ISBN:9784307750684
	その他	講義ごとの授業資料をPDFにてClassroomを通じて配信する
連絡先・オフィスアワー	連絡先: 研究室415 メールアドレス: k-maruya@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 9:00~12:00 アポイントの際はなるべく事前に連絡をすること。	
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての(専門機関における)実務経験を活かした講義を行う。	

科目コード	24-12323					
授業科目名	日常生活活動学					
配当年次	3学年					
開講時期	前期					
必修・選択・自由	必修					
単位	2単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	浅見 正人					
実務家教員	理学療法士：浅見 正人					
授業科目の概要	国際機能分類の基礎の理解とともに、日常生活活動に関する歴史、概念、範囲、定義および代表的な評価方法や対象者に対する動作・活動の評価、分析および指導について学習する。また、障害者に活用される支援機器・福祉用具に対する理解を深めるために、理学療法士が関与する機会が多い移動用補助具(杖、車いす等)の適応や使用、介助方法について、適切な採寸、選択や対象者の指導ができるように学習する。					
授業の到達目標	1.ICFの構成概念と日常生活活動(ADL)の種類や範囲が理解できる。 2.代表的な評価表(FIM、BI等)の特徴を理解し、その採点及び判定ができる。 3.各基本動作やADLの特徴を理解し、運動学的な分析、評価ができる。 4.移動補助具の適応・環境整備の方法を理解し、正しく使うことができる。 5.移動動作の正しい介助及び患者、家族指導ができる。					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)-①、②、③、④、(2)-①、②、③、(3)-②に該当。					
特に関連する科目	運動学Ⅰ・Ⅱ 臨床動作分析学 疾患別理学療法評価・治療学および演習 日常生活活動学演習 地域理学療法学 生活環境学 生活支援理学療法演習 評価実習 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ					
授業の具体的な進め方	履修する学生は初回講義までに、本学日常生活活動学のClassroomに参加する。 授業資料配布、課題提出はClassroomにて行う。 講義内容はシラバスに沿って遠隔授業(Google Meet)にて講義を実施する。 講義は「教科書」および「授業資料」を用いる。 各講義の最後およびまとめの際に実力確認テスト(確認テスト)を行い、知識の定着度を確認する。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	9/23	月	2	浅見正人	306	総論：授業概要の説明、日常生活活動学の概要、ICF・QOL(教科書該当ページ：1～20)
2	9/30	月	2	浅見正人	306	総論：ADL評価とその実際① ADL評価の概要と評価法(教科書該当ページ：21～36)
3	10/7	月	2	浅見正人	306	総論：ADL評価とその実際② パーセルインデックス(BI)(教科書該当ページ：45～54)
4	10/21	月	2	浅見正人	306	総論：ADL評価とその実際③ 機能的自立度評価法(FIM)①(教科書該当ページ：55～70)
5	10/28	月	2	浅見正人	306	総論：ADL評価とその実際④ 機能的自立度評価法(FIM)②(教科書該当ページ：55～70)
6	11/4	月	2	浅見正人	306	各論：歩行補助具の種類と杖のチェックアウト(教科書該当ページ：72～78、115～122)
7	11/11	月	2	浅見正人	306	各論：車いすの種類と車いすのチェックアウト(教科書該当ページ：78～83、110～114)
8	11/18	月	2	浅見正人	306	各論：動作指導・介助方法(起居動作、歩行・車いす操作)
9	11/25	月	2	浅見正人	306	各論：補装具・ADL支援機器(教科書該当ページ：137～148、149～156)
10	12/2	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導①(脳血管疾患：脳卒中片麻痺)(教科書該当ページ：157～163)
11	12/9	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導②(神経筋疾患：パーキンソン病、関節リウマチ)(該当ページ：157～166)
12	12/16	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導③(運動器疾患①：脊髄損傷)(教科書該当ページ：167～175)
13	12/23	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導④(運動器疾患②：脊髄損傷)(教科書該当ページ：167～175)
14	1/6	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導⑤(運動器疾患③：骨折、変形性関節症、切断、腰痛)(教科書該当ページ：176～183)
15	1/13	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導⑥(循環器・呼吸器疾患)-まとめ
成績評価方法・基準	各授業ごとに出席確認および小テストを実施する。配点は確認テスト(30%)、定期試験(70%)の合計にて判定し、60%以上を合格とする。ただし、一定以上の授業への出席が必要である。その他判定に関しては学内判定基準に準じる。					
課題に対するフィードバックの方法	確認テストは採点后すべて学生に返却する。 定期試験は試験終了後試験問題を持ち帰りにて配布し、模範解答は試験終了後数日以内にClassroomを通じて配布する。					
授業外における学習(予習・復習)	【予習について(15分程度)】 ・配布資料の内容が教科書のどこに該当するかを確認する ・教科書にてでくる分からない部分や太字の部分を確認する 【復習について(30分程度)】 ・実力確認テストにて間違った箇所の確認を行う ・授業中の講義内容で分からなかった点を確認する					
教科書 ・参考文献等	教科書	河元 岩男(編集)『日常生活活動学テキスト(改訂第3版)(シンプル理学療法学シリーズ)』(南江堂、2019年) ISBN:9784524245789				
	参考書	鶴見 隆正他(編集)『標準理学療法学～専門分野～<日常生活活動学・生活環境学>第6版(STANDARD TEXTBOOK)』(医学書院、2021年) ISBN: 9784260047517				
	その他	伊藤 利之他(編集)『新版日常生活活動(ADL)～評価と支援の実際～ 第2版』(医歯薬出版、2020年) ISBN:9784263266069				
連絡先・オフィスアワー	連絡先 :E-mail:m-azami@hsu.ac.jp オフィスアワー :水曜日9:30～12:30 その他 :事前連絡うえ、Meetを用いた質疑等の受付可能					
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての実務経験を活かした講義・演習を行う。					

科目コード	24-12331					
授業科目名	内部系理学療法評価・治療学					
配当年次	3学年					
開講時期	前期					
必修・選択・自由	必修					
単位	2単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	玉田 良樹					
実務家教員	理学療法士 : 玉田 良樹					
授業科目の概要	<p>生命維持に必要な器官である呼吸器系、循環器系、代謝系等の疾患や障害および悪性腫瘍に対する検査・測定方法、判定基準、評価、治療、リスク管理、効果判定、生活指導までの一連の理学療法過程について系統的に学習する。</p> <p>呼吸器系障害においては、呼吸に関する解剖学、生理学、運動学的知識を確認した上で、呼吸障害および呼吸リハビリテーションに関する概念を理解し、呼吸理学療法法の各手法について、前提となる評価方法とその理論および方法について学習する。代謝系障害においては糖尿病を中心に、その病態や障害構造を理解し、評価、治療(運動療法、食事療法、薬物療法等)、生活指導や発症予防について学習する。</p> <p>循環器の解剖学的名称や生理的機能を確認し、代表的な循環器系疾患(虚血性心疾患や心不全)に関して病態や症状、合併症を理解し、代表的な評価項目(心電図や触診、視診、聴診の方法等)、治療方法(適応および禁忌)、生活指導について学習する。</p> <p>代謝では糖尿病と腎疾患の理学療法の実施方法について、病態および理学療法評価、治療学について学習する。</p>					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各内部疾患(者)の病態を理解し、基本的な評価項目と治療法を列挙することができる。 2. 各内部疾患(者)に対応した理学療法プログラムを立案することができる。 3. 各内部疾患(者)・合併者のリスクを判断し、理学療法の評価法・治療法を実施するための適応と禁忌の判断基準に基づいて、基本的技術を模擬患者および健常者に対して試みることができる。 					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)ー①、(2)ー②、(3)ー②に該当。					
特に関連する科目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、解剖学Ⅲ、解剖学実習、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理学Ⅲ、生理学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、運動生理学、リハビリテーション医学、内科学、画像評価学、臨床検査学、内部系理学療法評価・治療学演習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ					
授業の具体的な進め方	教科書に準じて授業を進めていきますので、授業前に教科書をよく読んでおいてください。また、Google classroomを活用して授業を進めていきます。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	4/9	火	2	玉田良樹	312	内部系理学療法法の概論
2	4/23	火	2	玉田良樹	312	呼吸調整機能と呼吸機能評価の意義と方法;スパイロメトリ、呼吸困難感、血液ガス
3	4/30	火	2	玉田良樹	312	呼吸器疾患に対する理学療法①:慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息
4	5/7	火	3	玉田良樹	312	呼吸器疾患に対する理学療法②:外科手術後
5	5/14	火	3	玉田良樹	312	人工呼吸管理と気道内分泌物吸引法
6	5/21	火	2	玉田良樹	312	包括的呼吸リハビリテーションと在宅酸素療法
7	5/28	火	3	玉田良樹	312	心臓リハビリテーションの概要
8	6/4	火	2	玉田良樹	312	まとめ
9	6/11	火	2	玉田良樹	312	循環器疾患に対する理学療法①:虚血性心疾患
10	6/18	火	2	玉田良樹	312	循環器疾患に対する理学療法②:心不全
11	6/25	火	2	玉田良樹	312	不整脈と心電図の診かた
12	7/2	火	2	玉田良樹	312	循環器疾患における運動処方の方法(心肺運動負荷試験、6分間歩行、ボルグスケール)
13	7/9	火	2	玉田良樹	312	循環器疾患に対する理学療法③:大動脈、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症
14	7/16	火	2	玉田良樹	312	糖尿病に対する理学療法
15	7/23	火	2	玉田良樹	312	腎疾患に対する理学療法
成績評価方法・基準	前半テスト50%、後半テスト50%課題により計100%で評価し、60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバックの方法	質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。					
授業外における学習(予習・復習)	授業は上記の計画通りに進行する予定であるので、これまで学習した解剖、生理、運動学およびリハ医学等の復習とともに、指定の教科書や参考書を使用して、各疾患、障害について予習を行い、病態のメカニズムを理解して授業に臨むようにする。また、各回の講義で得たこと(達成度の確認)や次回の課題と目標を明確化できるよう各自が整理することが望ましい。そして、授業で学んだ内容を実践できるように復習もしなければならない。各講義における予習は30分以上、復習30分以上、合計60分以上の自主学習が望まれる。わからないことは放置しないで、確認や質問する姿勢が必要となる。					
教科書・参考文献等	教科書	高橋哲也編著『内部障害理学療法学(最新理学療法学講座)』(医歯薬出版、2021年) ISBN:9784263267387				
	参考書	奈良勲著『標準理学療法学～専門分野～(内部障害理学療法学) 第2版(STANDARD TEXTBOOK)』(医学書院、2020年) ISBN:9784260042642				
		細田多穂編著『内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版(シンプル理学療法学シリーズ)』(南江堂、2017年) ISBN:9784524254798				
		医療情報科学研究所 編集『病気がみえる<vol.3> 第5版 糖尿病・代謝・内分泌』(メディックメディア、2019年) ISBN:9784896327663				
その他	医療情報科学研究所 編『病気がみえる<Vol.4> 第3版 呼吸器』(メディックメディア、2018年) ISBN:9784896327304					
連絡先・オフィスアワー	必要に応じてプリントを配布する。					
連絡先・オフィスアワー	<p>連絡先 : 研究室413(4階) y-tamada@jhsu.ac.jp オフィスアワー: 火曜日13:30~15:00 水曜日13:30~15:00</p>					
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 臨床の現場で実際に行われている場面を動画および画像で示しながら講義を行う。					

科目コード	24-12336					
授業科目名	ウイメンズヘルス					
配当年次	3学年					
開講時期	後期					
必修・選択・自由	選択					
単位	1単位					
時間数	15時間					
授業形態	講義					
担当教員	寺岡 かおり					
実務家教員	理学療法士：寺岡かおり					
授業科目の概要	女性の各年代(思春期、青年期、老年期)による生理、身体的特徴や変化、社会・家庭における役割(仕事、出産・育児、家事等)の状況、あるいは、女性特有の疾患、症状等を理解する。その上で、様々な問題の解決に向けた多様なアプローチが求められる中で、リハビリテーションチームの一員として理学療法士がどのように介入すべきであるのか、その評価や治療の方法および役割について学習する。					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 思春期・妊娠・出産、そして更年期障害と生涯を通して女性のからだに起こりうる変化を学ぶ。 2. 思春期だからこそ大切にしたい性の考え方とアスリートの三主徴～について理解できる 3. 骨盤底機能障害に対する評価を説明し、実施できる。 4. 骨盤底筋群や腹横筋等のインナーユニットに対するトレーニングを説明し、指導できる 					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)に該当。					
特に関連する科目	解剖学 運動学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 生理学Ⅲ 理学療法評価学					
授業の具体的な進め方	各回とも講義と実習を組み合わせる。実技の習得状況の確認のために、実技実施時以降の授業時冒頭で学生に実技の発表を行って頂き、評価項目、方法を判断基準を確認していく。トレーニング方法に関しては、自身またはペアの学生の体の変化を通して学ぶ。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	10/28	火	1	寺岡かおり	312・301	思春期だからこそ大切にしたい性の考え方とアスリートの三主徴を理解する
2	11/4	火	1	寺岡かおり	312・301	無月経、月経に伴う症状、月経調整、体のコンディショニング、現在の性教育について学ぶ
3	11/11	火	1	寺岡かおり	312・301	産前産後の姿勢の変化から生じる身体の変化について学ぶ
4	11/18	火	1	寺岡かおり	312・301	産前産後に起こりやすいトラブル、妊娠の経過と姿勢の変化、体の変化と評価・アプローチ法について学ぶ
5	11/25	火	1	寺岡かおり	312・301	骨盤底機能障害に対するリハビリテーションについて学ぶ
6	12/2	火	1	寺岡かおり	312・301	・骨盤底筋群の運動機能を学び、機能評価の方法を学ぶ。 ・腹部機能の評価方法を学ぶ。
7	12/9	火	1	寺岡かおり	312・301	実際に骨盤底筋トレーニングを行い、自分自身の体の変化を知る(実技)
8	12/16	火	1	寺岡かおり	312・301	まとめ
成績評価方法・基準				講義、グループワークの取り組みと参加状況：20% 課題レポート：80%		
課題に対するフィードバックの方法						
授業外における学習(予習・復習)				授業後は講義時に配布された資料、参考文献を用いて復習を行うこと。		
教科書 ・参考文献等	教科書		特になし			
	参考書		講義内にて、適宜紹介する。			
	その他		特になし			
連絡先・オフィスアワー				質問等は授業前後に対応する。		
その他				【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。		

実務経験のある教員等による授業科目の配置(13単位分) 保健医療学部 理学療法学科
旧カリキュラム(2023年度以前入学生)

省令で定める基準単位数:13単位

	授業科目名	配当年次	単位数	時間数	担当教員の職位・氏名	実務経験
1	リハビリテーション医学	2前	1	30	教授 江口勝彦	理学療法士
2	神経系理学療法評価・治療学 I	2後	2	30	教授 金子純一郎	理学療法士
3	生体計測学	2後	1	30	教授 中野克己	理学療法士
4	物理療法学	2後	2	30	講師 大森啓之	理学療法士
5	地域理学療法学	3前	2	30	准教授 丸谷康平	理学療法士
6	日常生活活動学	2後	2	30	講師 浅見正人	理学療法士
7	内部系理学療法評価・治療学	3前	2	30	講師 玉田良樹	理学療法士
8	理学療法評価学演習 I	2前	1	30	講師 寺岡かおり	理学療法士
	単位数合計		13			

科目コード	12217					
授業科目名	リハビリテーション医学					
配当年次	2学年					
開講時期	前期					
必修・選択・自由	必修					
単位	1単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	江口 勝彦					
実務家教員	理学療法士：江口勝彦					
授業科目の概要	本講義では、臨床医学としてのリハビリテーション医学を理解するために、リハビリテーション医学の定義や歴史を含めた総論、临床上遭遇することの多い対象疾患（神経系、運動器系、呼吸器系、循環器系疾患）の特徴とそれらの疾患による機能障害、能力障害、社会的不利、その代表的な検査と評価法、リハビリテーション・アプローチ（理学療法、作業療法、言語聴覚療法等）について学習する。					
授業の到達目標	リハビリテーション医学のパラダイムを理解し、主要な疾患について、広く浅くリハビリテーション医学の視点から概観し、他科臨床医学系科目、理学療法専門科目の理解を深められるように準備することを目標とする。					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)①、(2)①②に該当。					
特に関連する科目	リハビリテーション概論、医学概論、一般臨床医学、整形外科学Ⅰ、整形外科学Ⅱ、神経内科学Ⅰ、神経内科学Ⅱ、小児科学、老年医学、ほか臨床医学系科目、理学療法専門科目					
授業の具体的な進め方	講義中心 適宜、関連の国家試験問題や作成した擬似問題を提示し、理解を深める できるだけインタラクティブに進めたいので、積極的に参加してほしい					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	4/9	火	1	江口勝彦	306	コースオリエンテーション、リハビリテーション医学概論 一般目標：リハビリテーション医学の特徴を理解する 行動目標：1. RH概論(1年開講科目)で学習したRH医学の成り立ち歴史を踏まえて、本邦における現在のRH医学の状況を説明できる(診療 標榜、学会、専門性) 2. RH医学の標準的な流れを説明できる
2	4/23	火	1	江口勝彦	306	脳疾患①脳卒中-1- 一般目標：脳卒中という疾患とその障害について理解する 行動目標：1. 脳卒中の分類ができる 2. 脳の局在についていえる 3. 中枢神経系の階層性と解放現象についていえる 4. 脳卒中による痙性麻痺と運動障害についていえる 5. 脳卒中による感覚障害、高次脳機能障害についていえる
3	4/30	火	1	江口勝彦	306	脳疾患①脳卒中-2- 一般目標：脳卒中のRHについて理解する 行動目標：1. 脳卒中の評価について、その概略がいえる 2. 脳卒中の病期と治療(PT, OT, ST, 装具, 他)についていえる
4	5/13	月	3	江口勝彦	306	脳疾患②外傷性脳障害など、脳疾患のまとめ 一般目標：外傷性脳障害とその障害について理解する 行動目標：1. 外傷性脳障害の特徴がいえる 2. 外傷性脳障害と脳卒中との類似点、相違点を理解する 一般目標：脳疾患のRHについて整理する 行動目標：1. 脳卒中のRHについて整理する 2. 外傷性脳障害のRHについて整理する
5	5/14	火	1	江口勝彦	306	脊髄損傷① 一般目標：脊髄損傷とその障害について理解する 行動目標：1. 脊髄損傷の分類ができる 2. 脊髄の局在についていえる 3. 脊髄損傷による痙性麻痺と運動障害についていえる 4. 脊髄損傷による感覚障害、その他の障害、合併症についていえる 5. 脊髄損傷の病期とそれに沿った管理、治療についていえる
6	5/21	火	1	江口勝彦	306	脊髄損傷② 一般目標：脊髄損傷のRHについて理解する 行動目標：1. ASIAについていえる 2. 完全横断損傷と不全(部分)損傷についていえる 2. 頸髄損傷(四肢麻痺)の障害についていえる 3. 胸髄・腰髄損傷(対麻痺)の障害についていえる 4. Goal Oriented な考え方を理解する 5. 脊髄損傷のGoalについて説明できる 6. 脊髄損傷のRHについて説明できる
7	5/28	火	1	江口勝彦	306	関節リウマチ 一般目標：関節リウマチのRHについて理解する 行動目標：1. 関節リウマチ(自己免疫疾患、膠原病)についていえる 2. 関節リウマチの障害像についていえる 3. 関節リウマチのRHについて説明できる
8	6/4	火	1	江口勝彦	306	小児疾患 - 発達と脳性小児麻痺 - 一般目標：小児の発達と中枢神経系の成熟について理解する 行動目標：1. 生理的早産について説明できる 2. 0~12ヶ月までの反射と運動発達についていえる 2. 小児と成人のRHの相違点についていえる 一般目標：脳性麻痺について理解する 行動目標：1. 脳性麻痺の定義についていえる 2. 0~12ヶ月までの反射と運動発達についていえる 2. 脳性麻痺の障害像についていえる 3. 脳性麻痺のRHについて説明できる
9	6/11	火	1	江口勝彦	306	神経筋疾患 - パーキンソン病を中心に - 一般目標：パーキンソン病のRHについて理解する 行動目標：1. パーキンソン病の概略についていえる 2. パーキンソン病の障害像についていえる 3. パーキンソン病のRHについて説明できる 4. その他の神経筋疾患について理解する
10	6/18	火	1	江口勝彦	306	疼痛性疾患 - いわゆる四十腰、いわゆる五十肩 - 一般目標：いわゆる腰痛症(四十腰)のRHについて理解する 行動目標：1. 腰痛症(四十腰)の概略についていえる 2. 腰痛症(四十腰)の障害像についていえる 3. 腰痛症(四十腰)のRHについて説明できる 一般目標：いわゆる肩関節周囲炎(五十肩)のRHについて理解する 行動目標：1. 肩関節周囲炎(五十肩)の概略についていえる 2. 肩関節周囲炎(五十肩)の障害像についていえる 3. 肩関節周囲炎(五十肩)のRHについて説明できる

11	6/25	火	1	江口勝彦	306	<p>関節疾患:変形性膝関節症、変形性股関節症 一般目標:変形性膝関節症のRHIについて理解する 行動目標:1.変形性膝関節症の概略についていえる 2.変形性膝関節症の障害像についていえる 3.変形性膝関節症のRHIについて説明できる 一般目標:変形性股関節症のRHIについて理解する 行動目標:1.変形性股関節症の概略についていえる 2.変形性股関節症の障害像についていえる 3.変形性股関節症のRHIについて説明できる</p>
12	7/2	火	1	江口勝彦	306	<p>外傷①スポーツ障害、末梢神経麻痺 一般目標:スポーツ障害(過用性症候群、靭帯損傷などの外傷)のRHIについて理解する 行動目標:1.スポーツ障害の概略についていえる 2.スポーツ障害の障害像についていえる 3.スポーツ障害のRHIについて説明できる 一般目標:末梢神経麻痺のRHIについて理解する 行動目標:1.末梢神経麻痺の概略についていえる 2.末梢神経麻痺の障害像についていえる 3.末梢神経麻痺のRHIについて説明できる</p>
13	7/9	火	1	江口勝彦	306	<p>外傷②骨折 一般目標:骨折のRHIについて理解する 行動目標:1.骨折の概略についていえる 2.骨折の障害像についていえる 3.代表的骨折についてRHIについて説明できる</p>
14	7/16	火	1	江口勝彦	306	<p>切断 一般目標:切断のRHIについて理解する 行動目標:1.切断の概略についていえる 2.切断の障害像についていえる 3.切断のRHIについて説明できる</p>
15	7/23	火	1	江口勝彦	306	<p>内部障害:呼吸系、循環系、代謝系とその他:熱傷、がん、周産期など 一般目標:呼吸(換気障害)のRHIについて理解する 行動目標:1.呼吸(換気障害)の概略についていえる 2.呼吸(換気障害)の障害像についていえる 3.呼吸(換気障害)の包括的RHIについて説明できる 一般目標:循環(虚血性心疾患)のRHIについて理解する 行動目標:1.循環(虚血性心疾患)の概略についていえる 2.循環(虚血性心疾患)の障害像についていえる 3.循環(虚血性心疾患)のRHIについて説明できる 一般目標:その他のRHIについて理解する 行動目標:その他のRHIについて説明できる</p>
成績評価方法・基準					筆記試験(出題形式は国家試験形式中心)100%	
課題に対するフィードバックの方法					課題なし	
授業外における学習(予習・復習)					教科書の関連部分を各自まとめる。	
教科書 ・参考文献等		教科書			出江紳一/加賀谷 編 『リハビリテーション医学テキスト改訂第5版』(南江堂、2022年) ISBN:9784524228492	
		参考書			上田敏、千野直一、大川嗣雄(編):リハビリテーション基礎医学 第2版。(医学書院、1994年) ISBN: 9784260243483	
		その他			講義の中で紹介	
その他					学年にふさわしい内容に留め、わかりやすさを目指しますので、不明な点はどんどん質問してください。	

科目コード	12315					
授業科目名	神経系理学療法評価・治療学Ⅰ					
配当年次	2学年					
開講時期	後期					
必修・選択・自由	必修					
単位	2単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	金子 純一郎					
実務家教員	理学療法士：金子純一郎					
授業科目の概要	脳血管障害の病態と障害像を理解し、その評価ならびに各病期における必要な基本的理学療法の進め方について学ぶ。具体的には、脳血管障害に対する理学療法評価(評価、問題点抽出)および理学療法治療(運動療法の原理、治療体系、問題点抽出後の目標設定、治療プログラム作成、理学療法実施方法)、日常生活活動(基本動作)の指導方法を学習する。					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 脳血管障害患者における合併症・併存疾患に配慮し、適切な理学療法が立案できる。 2 中枢神経障害がもたらす運動障害ならびに感覚・知覚・認識機能の評価ができる。 3 患者の個性や生活環境等の情報収集を行い、回復状況にあわせた目標が決定できる。 4 脳血管障害の各病期ならびに回復段階に必要な適切な基本的理学療法介入を実施できる。 					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)に該当。					
特に関連する科目	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 神経内科学Ⅰ・Ⅱ 画像評価学 基礎理学療法Ⅰ・Ⅱ 臨床推論演習 理学療法総合演習 理学療法評価学 理学療法評価学演習Ⅰ・Ⅱ 神経系理学療法評価・治療学Ⅱ 神経系理学療法評価・治療学演習 日常生活活動学 日常生活活動学演習 検査・測定実習 評価実習 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ					
授業の具体的な進め方	対面授業にて行う。 感染対策上、必要な場合は、遠隔授業にて行う場合がある。 講義は教科書を中心に進める。 十分な予習と復習を求める。 講義の理解度を確認するため、演習チェックやレポート課題を課す場合がある。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	9/27	金	3	金子純一郎	306	オリエンテーション 総論 中枢神経系の機能と構造、神経障害の定義
2	9/27	金	4	金子純一郎	306	2. 神経障害に対する理学療法介入、理学療法の考え方
3	10/4	金	3	金子純一郎	306	3. 脳卒中 急性期(症状・障害の理解)
4	10/4	金	4	金子純一郎	306	4. 脳卒中 急性期(理学療法の理論と実際)
5	10/11	金	3	金子純一郎	306	5. 脳卒中 回復期(症状・障害の理解)
6	10/11	金	4	金子純一郎	306	6.脳卒中 回復期(理学療法の理論と実際)1 立ち上がり動作～立位保持
7	10/25	金	3	金子純一郎	306	7.脳卒中 回復期(理学療法の理論と実際)2 立位～歩行
8	10/25	金	4	金子純一郎	306	8.脳卒中 回復期(理学療法の理論と実際)3 (姿勢調節障害に対する運動療法の進め方)
9	11/1	金	3	金子純一郎	306	9.脳卒中 回復期(理学療法の理論と実際)4 座位保持・寝返り・起き上がり動作
10	11/1	金	4	金子純一郎	306	10.脳卒中 維持期(症状・障害の理解)
11	11/8	金	3	金子純一郎	306	11.脳卒中 急性期(理学療法の実践-実技演習-)
12	11/8	金	4	金子純一郎	306	12.脳卒中 回復期・維持期(理学療法の実践-実技演習-)
13	11/15	金	3	金子純一郎	306	13.脳卒中 維持期(理学療法の実践2)
14	11/15	金	4	金子純一郎	306	14.脳卒中 急性期・回復期・維持期(症状・障害の理解)
15	11/22	金	3	金子純一郎	306	15.総合演習、まとめ、総括
成績評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験60%、レポート課題40%。補習は、単位認定試験や最終単位認定試験の受験条件とし、その指定した補習に出席しない場合は受験資格を失う。 小テストや課題を出す場合がある。それらの未提出や遅延、内容不十分な場合、講義ルール・マナー違反、迷惑行為等で注意された場合は、「1回につき総合点から10～40点減点」する。 2. データコピーやデータの使い回し、写し、コピー&ペースト、盗用などの不正行為やルール違反と判断された場合は不合格扱いまたは単位不認定とする。 3. レポート課題における酷似した成果物、試験中の持ち込み、特にメモ類は内容如何を問わずカンニング扱いとする。 試験監督者に不正行為やルール違反と判断された場合は、不正行為となる。 不正行為を行なった場合は、当該年度のすべての単位を取り消され、また、懲戒処分を受けるので注意すること。 4. 試験を欠席した場合は、次の試験を受けるために事務への連絡と所定の手続きを必ず行うこと。 					
課題に対するフィードバックの方法	毎回の振り返りに対して、質問や講義直後のリフレクションを通じてフィードバックする。					
授業外における学習(予習・復習)	<p>課題1: 講義前の予習として、教科書を十分に読み、内容の理解に努め、また、分からないことを明らかに講義に臨むこと。</p> <p>課題2: 講義中に説明したことは、ノートや蛍光マーカー、アンダーライン、教書への書き込みをするなど復習できるように記録すること。</p> <p>課題3: 講義後は学習した範囲の復習を行い神経系理学療法について理解・説明できるように、しっかりと覚えるまで十分に反復学習すること。</p> <p>課題4: 図書やオフィスアワー等を利用し、分からないことを必ず解決すること。</p> <p>課題5: 演習問題やレポート課題などを適時設ける場合がある。</p>					
教科書・参考文献等	教科書	神経障害理学療法学(潮見泰蔵、羊土社、2024/3/4) ISBN 9784758114370				
	参考書	相磯貞和『「ネッター解剖学アトラス」電子書籍付(原書第7版)』(南江堂、2022年) ISBN:9784524230082				
		松澤正ほか『理学療法評価学 第6版補訂版』(金原出版、2022年) ISBN:9784307750684				
		田崎義明ほか『ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版』(南山堂、2016年) ISBN:9784525247980				
その他	奈良勲他編『図解理学療法検査・測定ガイド 第2版』(文光堂、2009年) ISBN:9784830643590					
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。					

科目コード	12312					
授業科目名	生体計測学					
配当年次	2学年					
開講時期	後期					
必修・選択・自由	必修					
単位	1単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	中野 克己					
実務家教員	理学療法士:中野 克己					
授業科目の概要	理学療法の評価や治療場面において活用する様々なリハビリテーション機器の活用能力を身につけるために、数学および物理学の知識を応用しながら各測定・計測機器の原理や構造を理解し、その操作、使用方法、得られたデータの意味や解釈の方法について学習する。					
授業の到達目標	1. 機器の基本原理を理解し、説明できる。 2. 機器の測定対象について、疾患や障害を理解できる。 3. 機器の使用方法を理解できる。 4. グラフや表、図からデータを読み取り、結果の解釈について説明できる。					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(2)に該当。					
特に関連する科目	運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 神経系理学療法評価・治療学Ⅰ 神経系理学療法評価・治療学Ⅱ 運動器系理学療法評価・治療学Ⅰ 運動器系理学療法評価・治療学Ⅱ 臨床動作分析学					
授業の具体的な進め方	配布資料をもとに講義及び実技を対面形式で行う。 演習で得られたデータを収集し分析する。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	9/27	金	2	中野克己	306	オリエンテーション 計測法総論
2	10/4	金	2	中野克己	306	測定で用いられる数学的基礎
3	10/11	金	2	中野克己	306	メジャー、ストップウォッチを用いた計測の実際
4	10/25	金	2	中野克己	306	足圧分布計測システム
5	11/1	金	2	中野克己	306	血圧計
6	11/8	金	2	中野克己	306	パルスオキシメーター
7	11/15	金	2	中野克己	306	スパイロメーター
8	11/22	金	2	中野克己	306	体成分分析装置
9	11/29	金	2	中野克己	306	心電図
10	12/6	金	2	中野克己	306	筋電図
11	12/13	金	2	中野克己	306	筋力計測機器
12	12/20	金	2	中野克己	306	床反力計1
13	1/10	金	2	中野克己	306	床反力計2
14	1/17	金	2	中野克己	306	三次元動作解析装置1
15	1/24	金	2	中野克己	306	三次元動作解析装置2
成績評価方法・基準	各講義・演習終了後、課題の提出(100%)					
課題に対するフィードバックの方法	提出課題レポートについてはclassroomを活用し、授業に関する質問は、毎回の授業内でフィードバックする。					
授業外における学習(予習・復習)	予習: Classroomに挙げた課題を一通り目を通しておくこと(30分) 復習: 提出課題について調べ、classroomを通じて提出を行う(30分)					
教科書 ・参考文献等	教科書	特になし				
	参考書	内山靖・小林武・間瀬教史編集 『計測法入門～計り方、計る意味～』(協同医書出版社、2001年) ISBN:9784763910301				
	その他	特になし				
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての(専門機関における)実務経験を活かした講義を行う。					

科目コード	12327					
授業科目名	物理療法学					
配当年次	2学年					
開講時期	後期					
必修・選択・自由	必修					
単位	2単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	大森 啓之					
実務家教員	理学療法士：大森 啓之					
授業科目の概要	<p>温熱・寒冷、電気、光線、力等の物理的エネルギーを治療に用いる物理療法においては対象となる心身機能、身体構造の障害に対して、これらがどのような性質を有して、どのように作用するのかについて理解していなければ治療として活用することができない。そのため、様々な物理的エネルギーがどのように人体に影響を及ぼすのかについて学習する。そして、具体的な物理療法(温熱療法、寒冷療法、光線療法、電気刺激療法、牽引療法、水治療法等)について、定義、歴史、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、注意事項等の基本的知識について学習する。</p>					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種物理療法の治療根拠を理解する。 2. 各種物理療法の適応および注意事項、禁忌等について理解する。 3. 疾患、症状に対して適切な物理療法が選択、実施できる。 					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)に該当。					
特に関連する科目	物理学 数学基礎 生理学Ⅰ(生体の恒常性) 生理学Ⅱ(神経生理学) 生理学Ⅲ(消化・吸収・排泄) 生理学実習 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 運動学実習 整形外科Ⅰ(基礎) 整形外科Ⅱ(応用) 内科学 病理学 スポーツ医学 スポーツ傷害理学療法学 検査・測定実習 評価実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ					
授業の具体的な進め方	テキスト、配布資料を中心に講義形式でSyllabus通りに進める。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	9/26	木	1	大森啓之	306	物理療法の定義、歴史、原理、分類・温熱療法の定義、熱力学、生理学的作用
2	10/3	木	1	大森啓之	306	温熱療法の種類と実際
3	10/10	木	1	大森啓之	306	寒冷療法の定義、分類、生理学的作用
4	10/24	木	1	大森啓之	306	寒冷療法の種類と実際
5	10/31	木	1	大森啓之	306	超音波療法の定義、原理、生理学的作用、治療効果
6	11/7	木	1	大森啓之	306	超音波療法の適応、禁忌、治療の実際
7	11/14	木	1	大森啓之	306	ここまでのまとめ、まとめテスト
8	11/21	木	1	大森啓之	306	高周波療法の原理、生理学的作用、治療効果
9	11/21	木	4	大森啓之	306	高周波療法の適応、禁忌、治療の実際
10	11/28	木	1	大森啓之	306	光線療法(光線療法の定義、分類、生理学的作用)
11	11/28	木	3	大森啓之	306	光線療法(光線療法の実際：赤外線療法、紫外線療法、レーザー療法、日光浴)
12	12/5	木	1	大森啓之	306	電気刺激療法の原理、生理学的作用、治療効果
13	12/5	木	3	大森啓之	306	電気刺激療法の適応、禁忌、治療の実際
14	12/12	木	1	大森啓之	306	水治療法の定義、生理学的作用 適応、注意事項、禁忌および治療の実際
15	12/12	木	3	大森啓之	306	牽引療法・圧迫療法の原理、適応、注意事項、禁忌および治療の実際
成績評価方法・基準	筆記試験(まとめテスト、定期試験)にて100%判定する。					
課題に対するフィードバックの方法	講義内もしくは質問時に解説する。					
授業外における学習(予習・復習)	授業の前に予習として教科書の該当部分を必ず熟読した上で出席すること。毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れておくこと。知識の理解・習得のため、予習・復習を合わせて60分以上行うこと。					
教科書・参考文献等	教科書	松澤 正・江口 勝彦(編)『物理療法学 改訂第3版』(金原出版、2021年)ISBN: 9784307750639				
	参考書	(公社)東洋療法学校協会編/内田さえ・原田玲子ほか著『生理学 第3版』(医歯薬出版、2014年)ISBN 9784263241721				
	その他	必要に応じて資料を配布する。				
連絡先・オフィスアワー	連絡先: h-omori@hsu.ac.jp オフィスアワー: 火曜日13:00~15:00(事前に連絡することが望ましい) 南キャンパス: 413					
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。					

科目コード	12334
授業科目名	地域理学療法学
配当年次	3学年
開講時期	前期
必修・選択・自由	必修
単位	2単位
時間数	30時間
授業形態	講義
担当教員	丸谷 康平
実務家教員	理学療法士：丸谷康平
授業科目の概要	地域理学療法の基礎となる地域リハビリテーションの概念や思想、歴史、法・制度について理解するとともに、地域における理学療法士の役割を理解、基本的知識や技術について学習する。また、理学療法士の保健、予防領域での活動に関する社会的ニーズに対応するため、地域住民を対象とした健康増進、ヘルスプロモーションおよび介護予防支援で求められる理学療法士の活動やそのための基礎的な知識や技術についても学習する。
授業の到達目標	1.地域における医療・保健・福祉の各領域で求められる理学療法を行うために必要な知識を得て、説明できる 2.地域における理学療法について施行される環境別にその概要を把握し、説明することができる 3.介護保険システム、地域包括システムを理解し、そのシステムの中での理学療法士の役割を説明できる
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(3)に該当。
特に関連する科目	理学療法評価学、理学療法評価学演習、リハビリテーションチーム論、生活環境学、日常生活活動学、日常生活活動学演習、予防医学検査・測定実習、評価実習、地域実習、総合臨床実習
授業の具体的な進め方	履修する学生は初回講義までに、本学日常生活活動学のClassroomに参加する。 授業資料配布、課題提出はメールまたはClassroomにて行う。 講義内容はシラバスに沿って対面授業を原則として実施する。 講義は「授業資料」ならびに教科書を用いる。 各講義の最後およびまとめの際に知識確認テスト(小テスト)を行い、知識の定着度を確認する。

授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	4/5	金	2	丸谷康平	312	概論 一般目標:地域の捉え方、地域の役割、地域での役割を理解する 行動目標: ①地域における自分なりの定義を説明できる ②地域包括ケアシステムについて説明できる ③地域が持つ役割ならびに、地域での自分の役割の役割を説明できる
2	4/12	金	2	丸谷康平	312	介護保険サービス概論(介護保険の仕組み) 一般目標:介護保険制度について理解する 行動目標: ①介護保険制度の概要について説明できる ②介護保険における要介護認定および認定までの流れについて説明できる ③介護保険で利用できるサービス内容について説明できる
3	4/19	金	2	丸谷康平	312	施設(入所)サービス 一般目標:長期入所におけるリハビリテーションについて理解する 行動目標: ①生活期におけるリハビリテーションの考え方について説明できる ②介護保険における長期入所の施設の特徴を説明できる ③介護施設入所者の特徴を理解し、リハビリテーションの目標設定や介入のポイントを説明できる
4	4/26	金	2	丸谷康平	312	居宅(通所)サービス 一般目標:通所サービスにおけるリハビリテーションについて理解する 行動目標: ①介護保険における通所サービスについて説明できる ②デイケア(通所リハ)、デイサービス(通所介護)の違いについて説明できる ③介護予防・日常生活支援総合事業について説明できる
5	5/10	金	2	丸谷康平	312	居宅(訪問)サービス 一般目標:訪問サービスにおけるリハビリテーションについて理解する 行動目標: ①介護保険における訪問サービスについて説明できる ②訪問リハビリテーションの目的を説明できる
6	5/17	金	2	丸谷康平	312	居宅(短期入所・地域密着型)サービス 一般目標:短期入所や地域密着型サービスについて理解する 行動目標: ①短期入所や地域密着型サービスについて説明できる
7	5/31	金	2	丸谷康平	312	健康増進と介護予防 一般目標:健康増進や介護予防の分野における理学療法士の役割について理解する 行動目標: ①地域・自治体における健康増進や介護予防について説明できる ② // での理学療法士の役割について説明できる
8	6/7	金	2	丸谷康平	312	障害福祉 一般目標:障害福祉サービスについて理解する 行動目標: ①障害者総合支援法について説明できる ②障害福祉サービスについて説明できる ③障害福祉サービスにおける理学療法士の役割について説明できる
9	6/14	金	2	丸谷康平	312	産業保健 一般目標:産業保健について理解する 行動目標: ①産業保健分野(健康増進、労働災害予防など)における理学療法士の役割について説明できる
10	6/21	金	2	丸谷康平	312	疾患別地域理学療法(中枢神経疾患・運動器) 一般目標:中枢神経疾患・運動器における地域理学療法を理解する 行動目標: ①各疾患に対する地域理学療法としてのアプローチ方法を説明できる
11	6/28	金	2	丸谷康平	312	疾患別地域理学療法(神経難病領域) 一般目標:神経難病領域における地域理学療法を理解する 行動目標: ①各疾患に対する地域理学療法としてのアプローチ方法を説明できる
12	7/5	金	2	丸谷康平	312	疾患別地域理学療法(認知症・精神・小児領域) 一般目標:認知症・精神・小児領域における地域理学療法を理解する 行動目標: ①各疾患に対する地域理学療法としてのアプローチ方法を説明できる
13	7/12	金	2	丸谷康平	312	地域における環境的アプローチ 一般目標:地域における環境的アプローチを理解する 行動目標: ①地域における環境的アプローチについて説明できる
14	7/19	金	2	丸谷康平	312	演習(紙上患者におけるサービスプランニング、地域アプローチ) グループに分かれて、紙上患者をもとにグループごとにサービスプランニングを行う。 一般目標:サービスプランニングやアプローチが立案できる 行動目標: ①対象者にあったサービスプランニングやアプローチが立案できる

15	7/26	金	2	丸谷康平	312	<p>演習(紙上患者におけるサービスプランニング、地域アプローチ) グループに分かれて検討したサービスプランニングを他者にプレゼン発表する。</p> <p>一般目標: サービスプランニングやアプローチが立案、発表できる 行動目標: ①対象者にあったサービスプランニングやアプローチをわかりやすく説明できる</p>
成績評価方法・基準						各授業ごとに確認テストを実施する。配点は出席点(10%)、課題・プレゼン(30%)定期試験(60%)の合計にて判定し、60%以上を合格とする。しかし、1)一定以上の出席日数、2)課題の提出、3)期末試験が60%以上の3条件をすべて満たすことが必要である。その他判定に関しては学内判定基準に準じる。
課題に対するフィードバックの方法						課題やプレゼン内容については、当日の講評をもって返答する。 定期試験は試験終了後試験問題を持ち帰りにて配布し、模範解答は試験終了後数日以内にClassroomを通じて配布する。
授業外における学習(予習・復習)						授業範囲を教科書にて予習を行う。講義後に、講義で配布される資料を用いて復習をおこなうこと。復習ではGoogle Formを使った小テスト(授業復習問題)を解答し、予習・復習には講義ごとに概ね60分以上必要である。
教科書 ・参考文献等		教科書		浅川康吉編集『Crosslink理学療法学テキスト 地域理学療法学』(MEDICAL VIEW、2019年) ISBN:9784758320108		
		参考書		牧迫飛雄馬・吉松竜貴編『地域理学療法学(最新理学療法学講座)』(医歯薬出版、2021年) ISBN:9784263267349		
		その他		松澤 正(著)、江口 勝彦(著)『理学療法評価学 第6版補訂版』(金原出版、2022年) ISBN:9784307750684		
その他		講義ごとの授業資料をPDFにてClassroomを通じて配信する				
【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての(専門機関における)実務経験を活かした講義を行う。						

科目コード	12329					
授業科目名	日常生活活動学					
配当年次	2学年					
開講時期	後期					
必修・選択・自由	必修					
単位	2単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	浅見 正人					
実務家教員	理学療法士：浅見 正人					
授業科目の概要	国際機能分類の基礎の理解とともに、日常生活活動に関する歴史、概念、範囲、定義および代表的な評価方法や対象者に対する動作・活動の評価、分析および指導について学習する。また、障害者に活用される支援機器・福祉用具に対する理解を深めるために、理学療法士が関与する機会の多い移動用補助具(杖、車いす等)の適応や使用、介助方法について、適切な探求、選択や対象者の指導ができるように学習する。					
授業の到達目標	1.ICFの構成概念と日常生活活動(ADL)の種類や範囲が理解できる。 2.代表的な評価表(FIM、BI等)の特徴を理解し、その採点及び判定ができる。 3.各基本動作やADLの特徴を理解し、運動学的な分析、評価ができる。 4.移動補助具の適応・環境整備の方法を理解し、正しく使うことができる。 5.移動動作の正しい介助及び患者、家族指導ができる。					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)-①、②、③、④、(2)-①、②、③、(3)-②に該当。					
特に関連する科目	運動学Ⅰ・Ⅱ 臨床動作分析学 疾患別理学療法評価・治療学および演習 日常生活活動学演習 地域理学療法学 生活環境学 生活支援理学療法演習 評価実習 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ					
授業の具体的な進め方	履修する学生は初回講義までに、本学日常生活活動学のClassroomに参加する。 授業資料配布、課題提出はClassroomにて行う。 講義内容はシラバスに沿って遠隔授業(Google Meet)にて講義を実施する。 講義は「教科書」および「授業資料」を用いる。 各講義の最後およびまとめの際に実力確認テスト(確認テスト)を行い、知識の定着度を確認する。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	9/23	月	2	浅見正人	306	総論：授業概要の説明、日常生活活動学の概要、ICF・QOL(教科書該当ページ：1～20)
2	9/30	月	2	浅見正人	306	総論：ADL評価とその実際① ADL評価の概要と評価法(教科書該当ページ：21～36)
3	10/7	月	2	浅見正人	306	総論：ADL評価とその実際② パーセルインデックス(BI)(教科書該当ページ：45～54)
4	10/21	月	2	浅見正人	306	総論：ADL評価とその実際③ 機能的自立度評価法(FIM)①(教科書該当ページ：55～70)
5	10/28	月	2	浅見正人	306	総論：ADL評価とその実際④ 機能的自立度評価法(FIM)②(教科書該当ページ：55～70)
6	11/4	月	2	浅見正人	306	各論：歩行補助具の種類と杖のチェックアウト(教科書該当ページ：72～78、115～122)
7	11/11	月	2	浅見正人	306	各論：車いすの種類と車いすのチェックアウト(教科書該当ページ：78～83、110～114)
8	11/18	月	2	浅見正人	306	各論：動作指導・介助方法(起居動作、歩行・車いす操作)
9	11/25	月	2	浅見正人	306	各論：補装具・ADL支援機器(教科書該当ページ：137～148、149～156)
10	12/2	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導①(脳血管疾患：脳卒中片麻痺)(教科書該当ページ：157～163)
11	12/9	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導②(神経筋疾患：パーキンソン病、関節リウマチ)(該当ページ：157～166)
12	12/16	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導③(運動器疾患①：脊髄損傷)(教科書該当ページ：167～175)
13	12/23	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導④(運動器疾患②：脊髄損傷)(教科書該当ページ：167～175)
14	1/6	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導⑤(運動器疾患③：骨折、変形性関節症、切断、腰痛)(教科書該当ページ：176～183)
15	1/20	月	2	浅見正人	306	疾患別ADL指導⑥(循環器・呼吸器疾患)・まとめ
成績評価方法・基準	各授業ごとに出席確認および小テストを実施する。配点は確認テスト(30%)、定期試験(70%)の合計にて判定し、60%以上を合格とする。ただし、一定以上の授業への出席が必要である。その他判定に関しては学内判定基準に準じる。					
課題に対するフィードバックの方法	確認テストは採点后すべて学生に返却する。 定期試験は試験終了後試験問題を持ち帰りにて配布し、模範解答は試験終了後数日以内にClassroomを通じて配布する。					
授業外における学習(予習・復習)	【予習について(15分程度)】 ・配布資料の内容が教科書のどこに該当するかを確認する ・教科書にでてく分わからない部分や太字の部分を確認する 【復習について(30分程度)】 ・実力確認テストにて間違った箇所の確認を行う ・授業中の講義内容で分からなかった点を確認する					
教科書・参考文献等	教科書	河元 岩男(編集)『日常生活活動学テキスト(改訂第3版)(シンプル理学療法学シリーズ)』(南江堂、2019年) ISBN:9784524245789				
	参考書	鶴見 隆正他(編集)『標準理学療法学～専門分野～<日常生活活動学・生活環境学>第6版(STANDARD TEXTBOOK)』(医学書院、2021年) ISBN: 9784260047517 伊藤 利之他(編集)『新版日常生活活動(ADL)～評価と支援の実際～ 第2版』(医歯薬出版、2020年) ISBN:9784263266069				
	その他					
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】理学療法士としての実務経験を活かした講義・演習を行う。					

科目コード	12321					
授業科目名	内部系理学療法評価・治療学					
配当年次	3学年					
開講時期	前期					
必修・選択・自由	必修					
単位	2単位					
時間数	30時間					
授業形態	講義					
担当教員	玉田 良樹					
実務家教員	理学療法士 : 玉田 良樹					
授業科目の概要	<p>生命維持に必要な器官である呼吸器系、循環器系、代謝系等の疾患や障害および悪性腫瘍に対する検査・測定方法、判定基準、評価、治療、リスク管理、効果判定、生活指導までの一連の理学療法過程について系統的に学習する。</p> <p>呼吸器系障害においては、呼吸に関する解剖学、生理学、運動学の知識を確認した上で、呼吸障害および呼吸リハビリテーションに関する概念を理解し、呼吸理学療法の手技について、前提となる評価方法とその理論および方法について学習する。代謝系障害においては糖尿病を中心に、その病態や障害構造を理解し、評価、治療(運動療法、食事療法、薬物療法等)、生活指導や発症予防について学習する。</p> <p>循環器の解剖学的名称や生理的機能を確認し、代表的な循環器系疾患(虚血性心疾患や心不全)に関して病態や症状、合併症を理解し、代表的な評価項目(心電図や触診、視診、聴診の方法等)、治療方法(適応および禁忌)、生活指導について学習する。</p> <p>代謝では糖尿病と腎疾患の理学療法の実施方法について、病態および理学療法評価、治療学について学習する。</p>					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各内部疾患(者)の病態を理解し、基本的な評価項目と治療法を列挙することができる。 2. 各内部疾患(者)に対応した理学療法プログラムを立案することができる。 3. 各内部疾患(者)・合併者のリスクを判断し、理学療法の評価法・治療法を実施するための適応と禁忌の判断基準に基づいて、基本的技術を模擬患者および健常者に対して試みるができる。 					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)①、(2)②、(3)②に該当。					
特に関連する科目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、解剖学Ⅲ、解剖学実習、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理学Ⅲ、生理学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動学実習、運動生理学、リハビリテーション医学、内科学、画像評価学、臨床検査学、内部系理学療法評価・治療学演習、評価実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ					
授業の具体的な進め方	教科書に準じて授業を進めていきますので、授業前に教科書をよく読んでおいてください。また、Google classroomを活用して授業を進めていきます。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	4/9	火	2	玉田良樹	312	内部系理学療法の概論
2	4/23	火	2	玉田良樹	312	呼吸調整機能と呼吸機能評価の意義と方法; スパイロメトリ、呼吸困難感、血液ガス
3	4/30	火	2	玉田良樹	312	呼吸器疾患に対する理学療法①: 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息
4	5/7	火	3	玉田良樹	312	呼吸器疾患に対する理学療法②: 外科手術後
5	5/14	火	3	玉田良樹	312	人工呼吸管理と気道内分泌物吸引法
6	5/21	火	2	玉田良樹	312	包括的呼吸リハビリテーションと在宅酸素療法
7	5/28	火	3	玉田良樹	312	心臓リハビリテーションの概要
8	6/4	火	2	玉田良樹	312	まとめ
9	6/11	火	2	玉田良樹	312	循環器疾患に対する理学療法①: 虚血性心疾患
10	6/18	火	2	玉田良樹	312	循環器疾患に対する理学療法②: 心不全
11	6/25	火	2	玉田良樹	312	不整脈と心電図の診かた
12	7/2	火	2	玉田良樹	312	循環器疾患における運動処方の方法(心肺運動負荷試験、6分間歩行、ボルグスケール)
13	7/9	火	2	玉田良樹	312	循環器疾患に対する理学療法③: 大動脈、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症
14	7/16	火	2	玉田良樹	312	糖尿病に対する理学療法
15	7/23	火	2	玉田良樹	312	腎疾患に対する理学療法
成績評価方法・基準	前半テスト50%、後半テスト50%課題により計100%で評価し、60%以上を合格とする。					
課題に対するフィードバックの方法	質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。					
授業外における学習(予習・復習)	授業は上記の計画通りに進行する予定であるので、これまで学習した解剖、生理、運動学およびリハ医学等の復習とともに、指定の教科書や参考書を使用して、各疾患、障害について予習を行い、病態のメカニズムを理解して授業に臨むようにする。また、各回の講義で得たこと(達成度の確認)や次回の課題と目標を明確化できるよう各自が整理することが望ましい。そして、授業で学んだ内容を実践できるように復習もしなければならない。各講義における予習は30分以上、復習30分以上、合計60分以上の自主学習が望まれる。わからないことは放置しないで、確認や質問する姿勢が必要となる。					
教科書・参考文献等	教科書	高橋哲也編著『内部障害理学療法学(最新理学療法学講座)』(医歯薬出版、2021年) ISBN:9784263267387				
	参考書	奈良勲著『標準理学療法学～専門分野～(内部障害理学療法学) 第2版(STANDARD TEXTBOOK)』(医学書院、2020年) ISBN:9784260042642				
		細田多穂編著『内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版(シンプル理学療法学シリーズ)』(南江堂、2017年) ISBN:9784524254798				
		医療情報科学研究所 編集『病気がみえる<Vol.3> 第5版 糖尿病・代謝・内分泌』(メディックメディア、2019年) ISBN:9784896327663				
その他	医療情報科学研究所 編『病気がみえる<Vol.4> 第3版 呼吸器』(メディックメディア、2018年) ISBN:9784896327304					
その他	必要に応じてプリントを配布する。					
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 臨床の現場で実際に行われている場面を動画および画像で示しながら講義を行う。					

科目コード	12310					
授業科目名	理学療法評価学演習 I					
配当年次	2学年					
開講時期	前期					
必修・選択・自由	必修					
単位	1単位					
時間数	30時間					
授業形態	演習					
担当教員	寺岡 かおり					
実務家教員	理学療法士：寺岡かおり					
授業科目の概要	理学療法評価において基本的検査・測定である筋力検査に関してその意義、目的、種類、対象、方法、判定基準や結果の解釈について学習する。そして、筋力検査の中でも徒手筋力検査に関しては、関連する解剖学的、運動学的知識についても再確認しながら、頭部・体幹、上肢、下肢の各検査の具体的な方法を総合的に学習する。本講義の演習で身につけた知識や技術を通して、その後の各臨床実習の基礎力を高めるものとする。					
授業の到達目標	1. 徒手筋力検査法の意義、目的、測定方法を説明できる 2. 徒手筋力検査法の判定基準、基本的手技について説明し実施できる 3. 各上肢の徒手筋力検査法について、主動作筋とその起始付着、神経支配と髄節レベルを説明し実施できる 4. 各下肢の徒手筋力検査法について、主動作筋とその起始付着、神経支配と髄節レベルを説明し実施できる 5. 頭部体幹の徒手筋力検査法について、主動作筋とその起始付着、神経支配を説明し実施できる 6. 徒手筋力検査法を姿勢別に実践できる					
関連するディプロマポリシー	理学療法学科DP(1)③(2)①②③(3)①に該当。					
特に関連する科目	解剖学 生理学 基礎理学療法学 各理学療法評価学・治療学					
授業の具体的な進め方	課題1: 事前に、教科書を丁寧に読み、検査の姿勢(体位と肢位)、抵抗の部位、固定・保持の部位、検者の立ち位置と姿勢、別法の手技、代償運動を理解し覚える。 課題2: 事前に、患者役を単独で自主練習し手技を理解し覚える。 課題3: 事前に、検者役を単独で自主練習し手技を理解し覚える。 授業にて徒手筋力検査法のデモンストレーションを見て確認する。 授業にてペアで実技を確認する。 演習授業後に実技の単独練習およびペア練習を十分に行う。 演習時の服装は、KCまたは半袖・短パン、運動着等(装飾品やパーカー禁止)としマスク着用とする。 感染対策の状況により、演習授業を下記のような対面授業または遠隔授業で行う場合がある。 遠隔授業: オンラインやオンデマンド。 対面授業: 前半と後半の交代制や教室分散など。					
授業計画						
回数	月日	曜日	時限	教員	教室	内容
1	4/12	金	3	寺岡かおり	301	オリエンテーション 徒手筋力検査法総論
2	4/12	金	4	寺岡かおり	301	下肢の徒手筋力検査法(股関節)
3	4/19	金	3	寺岡かおり	301	下肢の徒手筋力検査法(股関節)
4	4/19	金	4	寺岡かおり	301	下肢の徒手筋力検査法(股関節)
5	4/26	金	3	寺岡かおり	301	下肢の徒手筋力検査法(膝関節)
6	4/26	金	4	寺岡かおり	301	下肢の徒手筋力検査法(膝関節)
7	5/10	金	3	寺岡かおり	301	頭・頸部のMMT
8	5/10	金	4	寺岡かおり	301	頭・頸部のMMT
9	5/17	金	3	寺岡かおり	301	体幹・骨盤帯のMMT
10	5/17	金	4	寺岡かおり	301	体幹・骨盤帯のMMT
11	5/31	金	3	寺岡かおり	301	上肢のMMT(肩甲帯)
12	5/31	金	4	寺岡かおり	301	上肢のMMT(肩甲帯)
13	6/7	金	3	寺岡かおり	301	上肢のMMT(肩関節)
14	6/7	金	4	寺岡かおり	301	上肢のMMT(肩関節)
15	6/14	金	3	寺岡かおり	301	上肢のMMT(肘・手関節)
成績評価方法・基準	成績は①筆記試験(期末試験)(40%)、②実技試験(40%)、③小テスト(20%)の合計にて判定する。合計点が60%以上を合格とする。ただし、①②はそれぞれ単独で60%以上取得する必要がある。単独で60%以下の場合には、再試験を実施する。出席日数が2/3以上であることが条件である。その他、判定に関しては学内判定基準に準じる。ただし、再試験および単位認定試験対象者については、筆記試験と実技試験が両方合格した場合には、合計点が60%に満たなかった場合でも合格とする。					
課題に対するフィードバックの方法	授業後および適宜行う。					
授業外における学習(予習・復習)	1. MMTの基礎となる関節名、関節運動名、筋の起始停止(付着)、支配神経、髄節レベルなどの1年次や2年次の解剖学や生理学、運動学等を十分に復習等してから授業に参加すること。 2. MMTの重要ポイントである検査の姿勢(体位と肢位)、抵抗の部位、固定・保持の部位、検者の立ち位置と姿勢、別法の手技、代償運動を教科書を読み十分に把握・理解し、そして、自主練習してからペアで実技を行う演習授業に参加すること。 3. 授業前や授業後に図書やオフィスアワー等を利用して、分からないことを必ず解決すること。					
教科書・参考文献等	教科書	Helen J. Hislop著、津山直一訳『新・徒手筋力検査法 原著第10版』(エルゼビア・ジャパン、2020年) ISBN:9784763900418				
	参考書	野村 巖編『解剖学 第5版(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)』(医学書院、2020年) ISBN:9784260039222				
		松澤正、江口勝彦『理学療法評価学 第6版補訂版』(金原出版、2022年) ISBN:9784307750684				
		青木隆明、林典雄『運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス』(メジカルビュー社 2022年) ISBN:9784758320931				
その他	特になし					
その他	【実務経験を活かした実践的教育内容】 理学療法士としての(専門機関における)実務経験を活かした講義(演習)を行う。					